

出口修さんは白革(鹿の皮をなめして作った)の話をして下さいました。石清水八幡宮の神宝所神人の管轄のもと、神人である科手の技術を持った職人がその白革に菖蒲等の文様を入れ武具、馬具などを作り、それを將軍家に献上していました。牛馬の皮より軽く通気性がありしなやかで人気があったようです。1657年1月江戸の大火で死者が10万人出ました。それ以降革製品の需要が高まり庶民の服飾、財布、小物入れなどにまで白革がひろがり、神宝所神人の収入が莫大になりました。幕末には幕府の弱体化により菖蒲革献上の相手は天皇家へも。石清水八幡宮には約450基の石灯籠がありますが、三の鳥居の両脇の大きな灯籠は大坂白革屋が1862年八幡宮社務へお金と共に献上したものです。どうも朝廷と近い関係の田中家との接触が狙いだったようです。灯籠を見てみませんか。



上：石清水八幡宮三の鳥居
両側のひときわ大きい石灯籠が
大坂白革屋中寄進のもの



左：大坂白革屋中寄進石灯籠
(竿部分)

- ① 日時 2025年7月23日(水)10時～
- ② 講師 出口修さん
- ③ 参加費 100円

八幡まるごと館/八幡市男山松里12-20 (TEL&FAX) 07
5-983-3664
(E-MAIL) yawata@marugotokan.net 作られた
ホームページは <http://marugotokan.net/>
又は、八幡まるごと館で検索して下さい



●
八幡まるごと館は街行く人のだれもが自由に立ち寄れる“地域サロン”です。休館日は毎週火曜日全日と土・日午後です。